

# まほろば健康パーク基本計画

令和7年3月

奈良県

## 目次

1	はじめに	3
1.1	計画の位置づけ	3
1.2	これまでの経緯	3
2	本公園の現状と課題	6
2.1	まほろば健康パークの現状	6
2.2	インクルーシブ公園整備に向けた課題	19
3	基本方針	21
3.1	基本コンセプト	21
3.2	ゾーン配置等の考え方	21
3.3	動線計画	22
4	公園整備方針	24
4.1	施設整備の考え方	24
4.2	施設配置イメージ	24
4.3	各エリアの施設整備等の詳細	25
5	管理運営方針	27
5.1	維持管理の考え方	27
5.2	運営の考え方	27
6	事業推進の考え方	28
6.1	費用負担の考え方	28
6.2	想定される事業手法(案)	29
7	まとめ	32
7.1	基本計画図	32
7.2	イメージパース	33
7.3	事業スケジュール(想定)	34

# 1 はじめに

## 1.1 計画の位置づけ

本計画は、「奈良県子ども・子育て推進本部会議(令和5年7月)」での「障害の有無にかかわらず楽しく安全に遊べる場所(公園)が少ない」という意見を踏まえて、令和5年12月に「まほろば健康パークにおけるインクルーシブ機能検討委員会」を設置して、令和6年2月から同年11月まで合計5回開催された内容に基づき、整備方針及び維持管理・運営に係る基本的な考え方をとりまとめたものである。

## 1.2 これまでの経緯

まほろば健康パークの成り立ちから基本計画の策定、公園予定区域の議決に至る経緯について、時系列で示すと以下のとおりである。

昭和 59(1984)年:大和川・佐保川の合流点に位置する浄化センターの周辺環境向上と県民の生涯スポーツの拠点として、テニスコートやファミリープールをもつ運動公園としてオープン

平成 26(2014)年:奈良市内の県営プールの老朽化に伴う、新たな水泳拠点の整備のため、県内初の PFI 方式を導入した、「新県営プール施設等整備運営事業」として、移築・再整備

平成 30(2018)年:隣接する浄化センターの拡張予定であった土地を活用し、公園の機能強化を行う基本構想を策定

令和 4 年(2022)年 2 月:拡張する区域について、都市公園法第 33 条の規定により、公園予定区域として議会で議決し公告

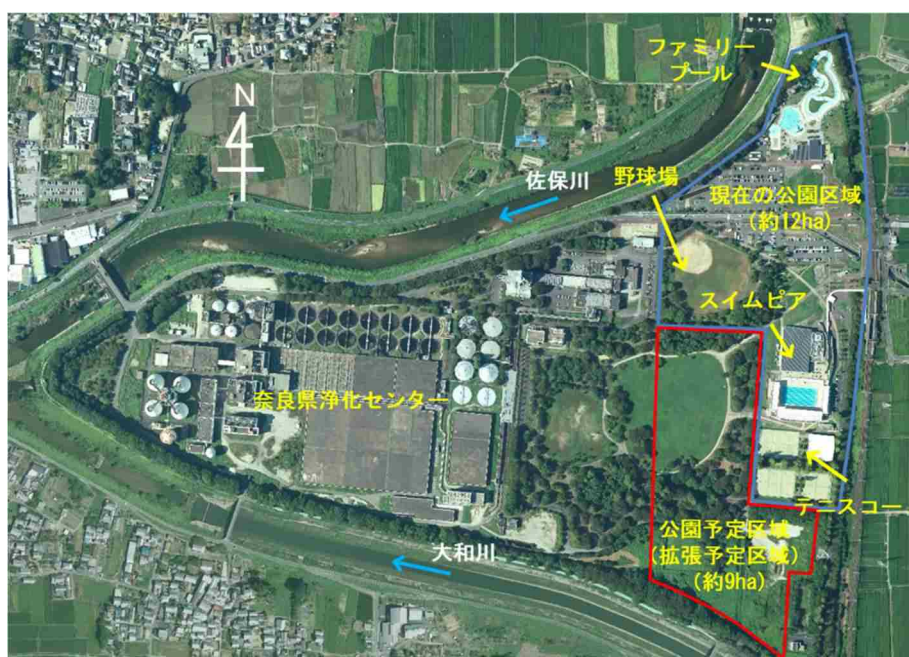


写真1.1 まほろば健康パークの現況

令和4(2022)年3月:まほろば健康パーク機能強化基本計画を策定



図1.1 まほろば健康パーク機能強化基本計画における基本計画図(令和4年度)

令和5(2023)年6月:知事による予算執行査定により、令和4年策定の「まほろば健康パーク機能強化基本計画」を再検討することを発表。

(予算執行査定内容)

「新たな施設の整備については、ニーズの把握や他の既存施設とは異なる付加価値の提供等が重要。県内の同種の施設との重複も含め、整備が必要な施設を再検討することとする。」

令和5(2023)年7月:第1回「奈良県こども・子育て推進本部会議(令和5年7月)」の開催  
 (公園に関する意見)  
 「障害の有無にかかわらず楽しく安全に遊べる場所(公園)が少ない。」

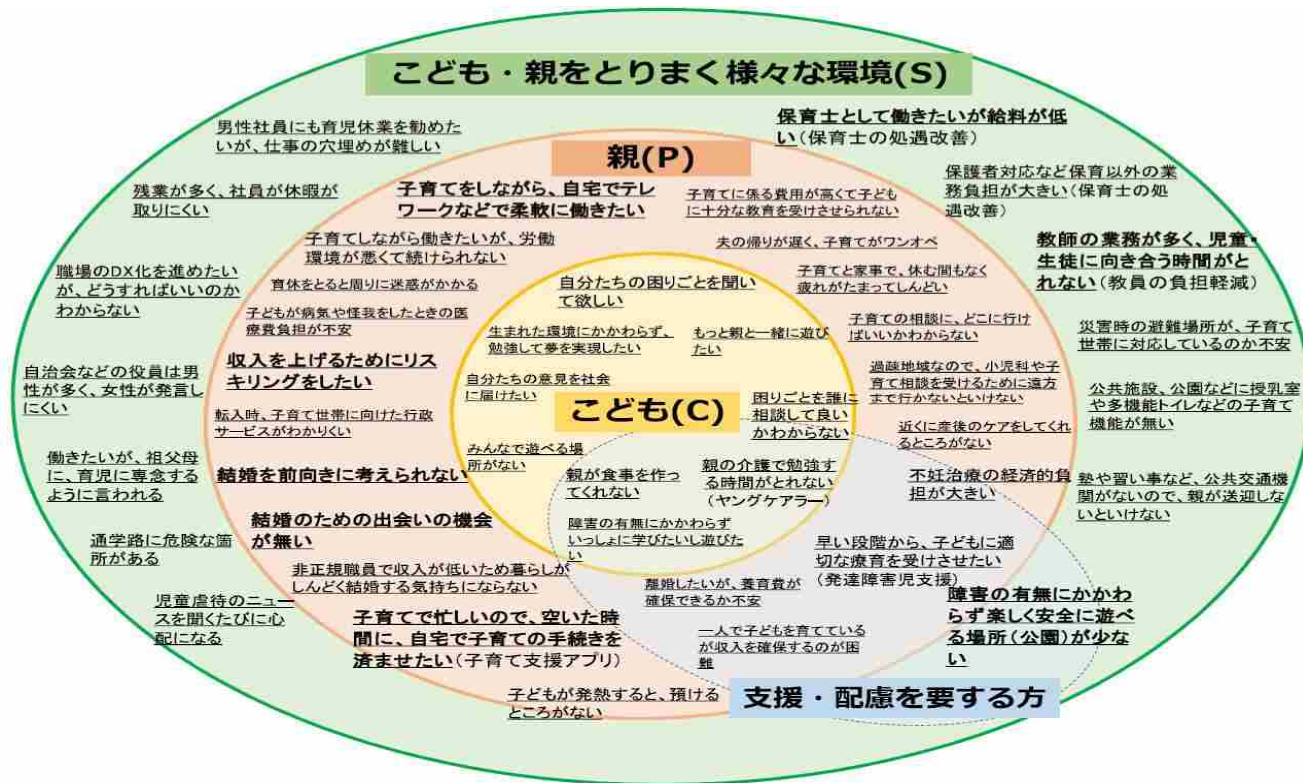


図1.2 第1回「奈良県こども・子育て推進本部会議(令和5年7月)」資料

令和6(2024)年10月:「奈良県こどもまんなか未来戦略」を策定し、同計画の中で「こども、子育てにやさしいインクルーシブなまちづくり」を掲げて、まほろば健康パークのインクルーシブ公園の整備が位置づけられる。

## 2 本公園の現状と課題

### 2.1 まほろば健康パークの現状

#### (1) 敷地・施設の現況

本公園は、下水処理施設の周辺環境対策施設として昭和 49 年 2 月に都市計画決定を受け、県民にスポーツと憩いの場を提供することを主たる目的とした運動公園として設置された。設置目的を踏まえつつ、平成 26 年にはスイムピア奈良などの新たなスポーツ施設を導入したりリニューアルを実施し、県民の健康やスポーツ・運動を支える県営公園のひとつとして機能を発揮しているところである。

表 2.1 本公園の概要

施設名	まほろば健康パーク
位置づけ	都市公園(運動公園)
施設位置	奈良県大和郡山市宮堂町、川西町大字下永
設置目的	県民にスポーツと憩いの広場を提供すること
設置年	昭和 49 年 2 月(リニューアル後の直近開園日は平成 27 年 7 月)
施設規模	11.8ha(計画面積:12.8ha)
施設 コンセプト	<p>■健康増進リハビリの中核施設 子どもから高齢者まで、あらゆる年齢の誰もがいつでも気軽に利用できる健康増進・リハビリテーションの中核施設</p> <p>■人にやさしい施設 バリアフリー等ユニバーサルデザインに配慮した、全ての人にやさしい福祉型スポーツ施設</p> <p>■県内の水泳競技の拠点施設 全国規模の競技大会が開催できる競技場として、また、選手・指導者の育成が行える県内水泳競技振興の拠点としての施設</p>
現在の 管理運営方式	<p>PFI-BTO 方式(指定管理者制度を併用)</p> <p>※事業期間:平成 23 年 9 月~令和 11 年 3 月(17 年 6 か月)</p>

現在の公園区域(以下、「既存公園」という)は、本公園東側の近鉄橿原線に沿って南北に帯状に伸び、県道 109 号天理斑鳩線をはさんで、南北に公園敷地が整備されている。

公園内には、県道北側にファミリープール、ファミリー鉄道、南側に野球場、子ども広場、プール、テニスコート等が配置されている。駐車場は県道両側に整備されており、そこから各施設にアクセスする形態となっている。また、最寄り駅である「近鉄ファミリー公園前駅」が公園の東端中央部に位置しており、各施設へアクセスしやすい。

来園者の自家用車利用率は 78.7%、駐車可能台数は 550 台あるが、ファミリープール開園時期は駐車場が不足している。駐車料金は無料である。

自動車は、敷地北側の県道 109 号天理斑鳩線から既存駐車場へアクセスしやすいが、公園南側からのアクセスはしにくい。歩行者は、周辺又は近鉄ファミリー公園前から、自転車はサイクリングルート(ならクル)からのアクセスとなる。

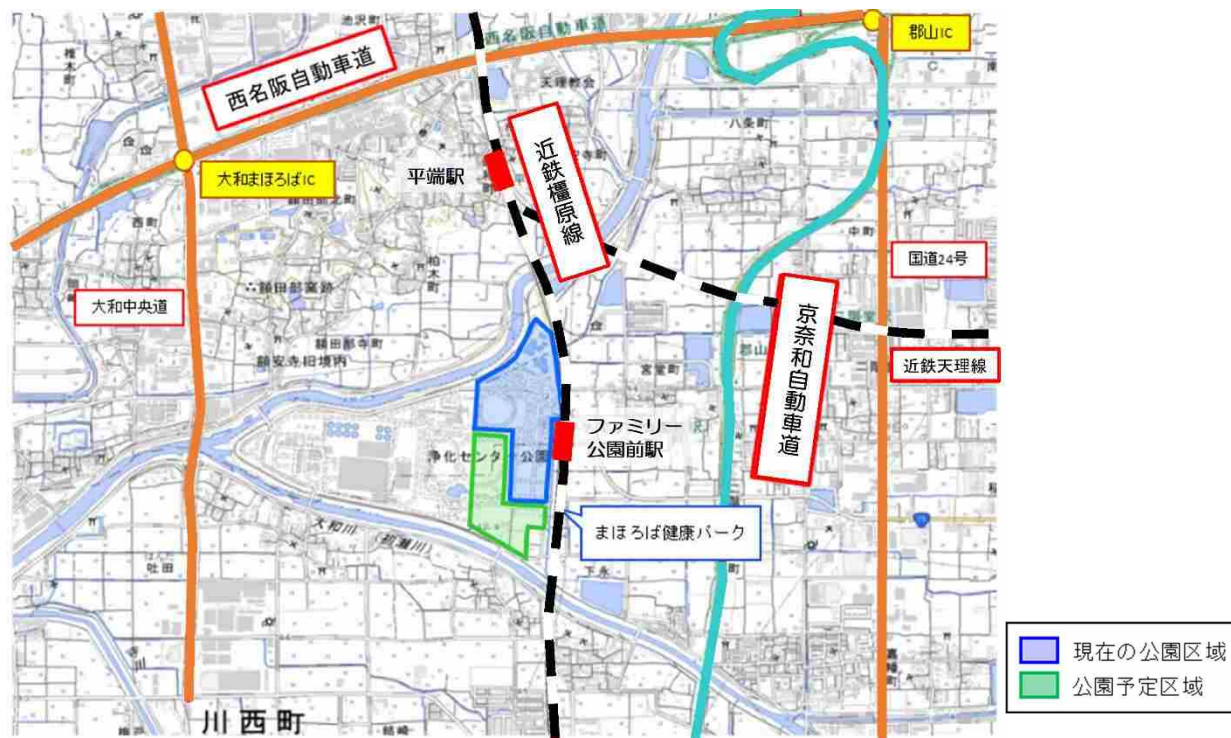


図2.1 本公園の位置図



図2.2 本公園へのアクセス状況

本公園施設の運用状況をみると、スイムピア奈良やテニスコート、軟式野球場などのスポーツ施設は年間を通して営業している。ファミリープールは7月から8月までの夏場のみの営業であり、ファミリー鉄道は4月から11月までの土日祝日を中心として営業し、年間を通して利用できる子ども向けの施設は、無料施設である子ども広場のみである。

表 2.2 公園施設の概要

## ■有料施設

施設名	スイムピア奈良	テニスコート	軟式野球場	ファミリープール	ファミリー鉄道
イメージ					
規模等	・延床面積:7,996㎡ ・RC造一部S造 ・地上2階、地下1階、 塔屋1階	・約13,275㎡	・約11,180㎡	・約13,222㎡	・一周約350m
施設内容	・25m屋内競泳プール ・50m屋外競泳プール ・25m健康増進プール ・ジャグジープール ・採暖室 ・フィットネススタジオ ・トレーニングジム ・サイクリングステーション	・人工芝コート:10面 (うち屋根付き2面)	1面 (両翼90m センター110m)	■プールゾーン ・流れるプール ・流水スライダー ・幼児用プール ・バケツプール ・噴水 ■軽食コーナー ・軽食類販売	・ミニ鉄道の乗車体験
利用料金	1日利用(時間割あり) [一般]1,320円 [高大学生]910円 [65歳以上]830円 [障害者]無料	[コート] (1面1時間)560円 [照明] (1時間)500円	[午前利用]2,440円 [午後利用]4,370円 [全日利用]5,800円 ※午前利用9時~12時 ※午後利用13時~17時 ※全日利用9時~17時	[個人利用] ・子ども420円 ・大人860円 団体利用 ・子ども370円 ・大人770円	1回300円 2回500円
利用者数 年間	208,699人/年 (令和5年度実績)	26,309人/年 (令和5年度実績)	3,503人/年 (令和5年度実績)	82,889人/年 (令和5年度実績)	23,091人/年 (令和5年度実績)

## ■無料施設

施設名	こども広場	駐車場
イメージ		
規模等	・約6,000㎡	・約550台 (うちバス専用6台)



1) 拡張予定範囲の現状

拡張予定区域には、現在、浄化センターが管理する自由広場がある。  
 自由広場内には、芝生広場、遊歩道、樹木、池がある。  
 自由広場は雨水調整池としての機能も有している。

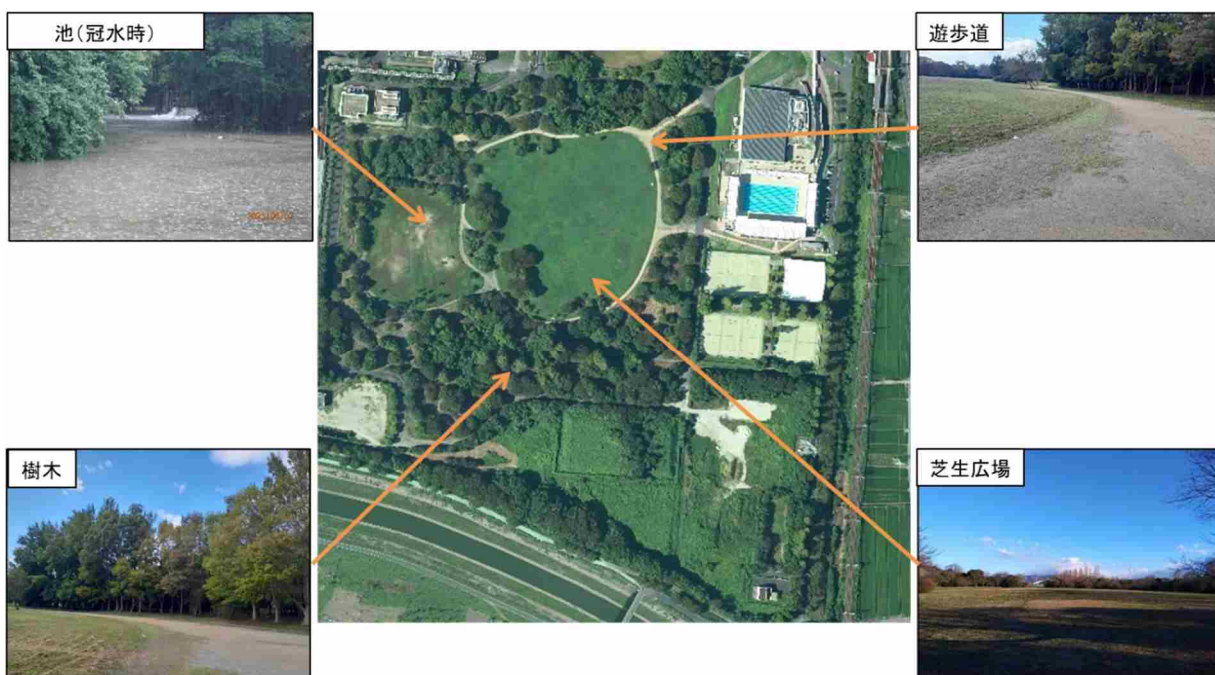


図2.3 本公園の現況

## (2) 現在の利用状況

## 1) 既存区域における利用状況

まほろば健康パークのファミリープール利用者は、奈良市、大和郡山市をはじめ、橿原市、天理市などの県内、大阪市、木津川市など他府県からも来園している。

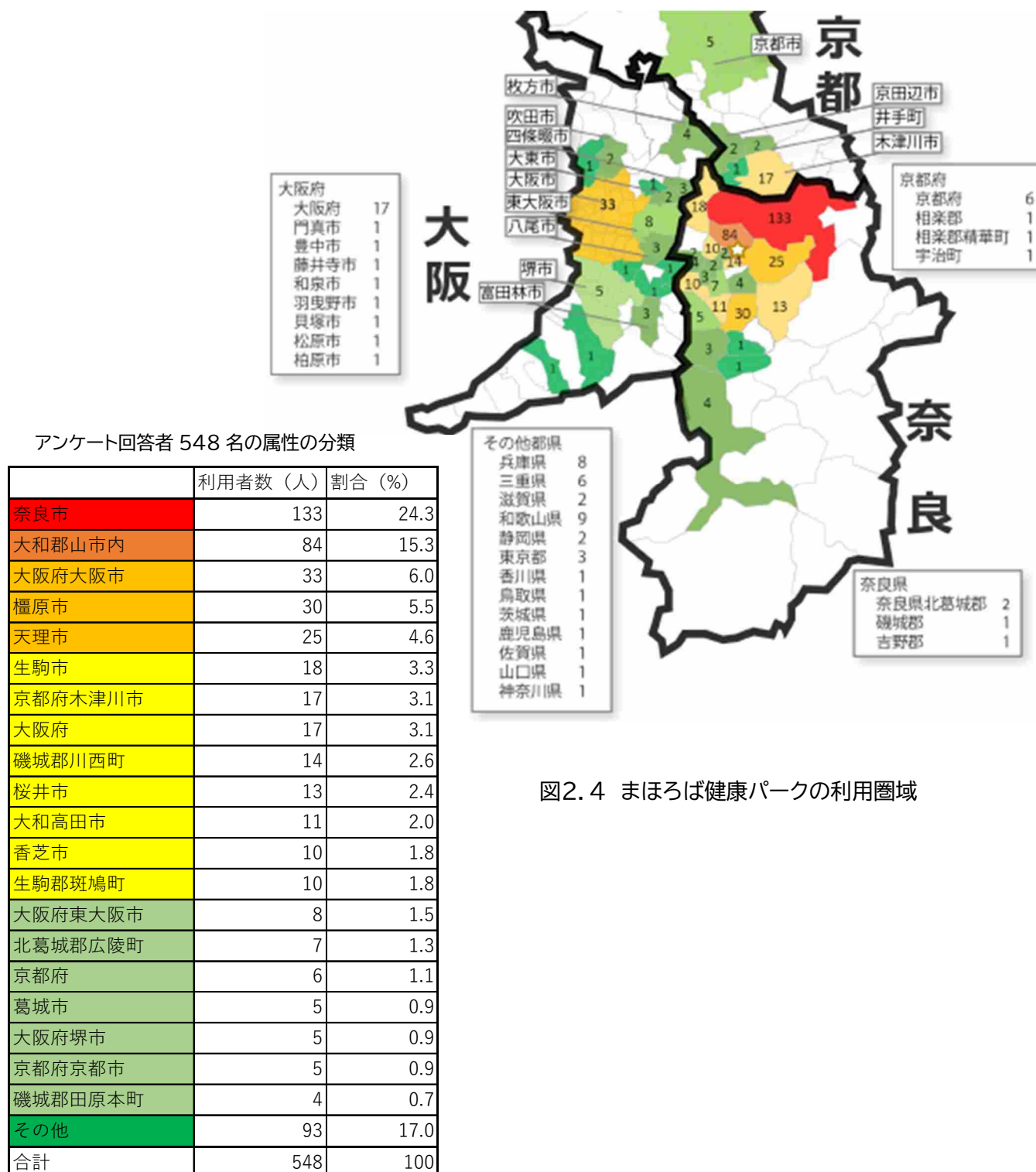


図2.4 まほろば健康パークの利用圏域

## 2) まほろば健康パーク利用圏域内の類似施設

まほろば健康パークにおける利用圏域内には、10ha 以上の面積を有する国営・県営公園の類似施設として、大洲池公園や橿原公苑などが点在しているが、子どもの遊び場を主テーマとした公園はない。

公園名	所在地	供用面積 (ha)	主なテーマ
奈良公園	奈良市	511.3	歴史・自然環境
県営平城宮跡歴史公園	奈良市	8.1	歴史・自然環境
大洲池公園	奈良市	23.5	自然環境・スポーツ
大和民俗公園	大和郡山市	22.6	歴史・自然環境
まほろば健康パーク	大和郡山市・川西町	11.8	スポーツ・環境保全
橿原公苑	橿原市	10.2	スポーツ
馬見丘陵公園	広陵町・河合町	56.2	花・自然環境
竜田公園	斑鳩町	14.0	景観保全
県営うだ・アニマルパーク	宇陀市	8.2	動物保護
国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域	奈良市	31.8	歴史・自然環境
同 飛鳥区域	明日香村	59.9	歴史・自然環境



図2.5 まほろば健康パークの類似施設分布

一方で、市・町や民間事業者が整備している各種遊び場を有する施設は一定数確保されている。

### 類似施設(各種遊び場を有する施設)の分布状況

施設名	所在地	施設概要
ゆめのくに新大宮	奈良市	室内遊び場
にんじゃパーク奈良店(ミ・ナアラ)	奈良市	室内遊び場
ラウンドワンスタジアム 奈良ミ・ナアラ店	奈良市	室内遊び場
柏木公園	奈良市	公園
竹取公園	広陵町	公園
奈良わんぱくランド はしゃきっず	天理市	室内遊び場
天理駅前広場コフファン	天理市	駅前広場
キッズランドUS 奈良香芝店	香芝市	室内遊び場
ひみっこぱーく	桜井市	室内遊び場
モーリーファンタジー 桜井店	桜井市	室内遊び場
二上山ふるさと公園	葛城市	公園
葛城山麓公園	葛城市	公園
モーリーファンタジー 大和郡山店	大和郡山市	室内遊び場
橿原市立こども科学館	橿原市	科学館
香具山公園	橿原市	公園
モーリーファンタジー 橿原店	橿原市	室内遊び場
アミパラ 橿原店	橿原市	室内遊び場
生駒山上遊園地(ITADAKI)	生駒市	遊園地
生駒山麓公園・フィールドアスレチック	生駒市	公園
モーリーファンタジー 登美ヶ丘店	生駒市	室内遊び場
農業公園信貴山のどか村	三郷町	公園



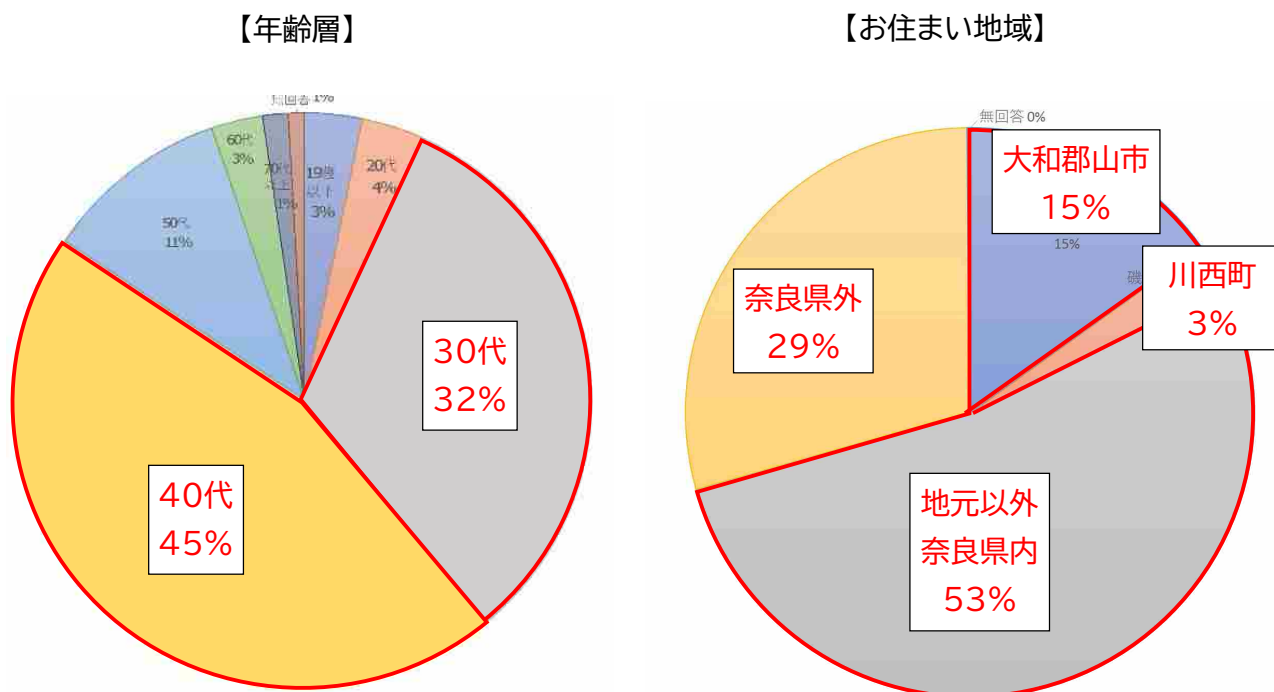
図2.6 まほろば健康パークの周辺の各種遊び場

このため、新たな施設の整備については、ニーズを把握して他の既存施設とは異なる付加価値の検討が必要である。整備に際して、必要な機能等を決めるため、公園利用者へのアンケート調査および県内福祉団体等に対してヒアリングを実施した。

(3) アンケート結果

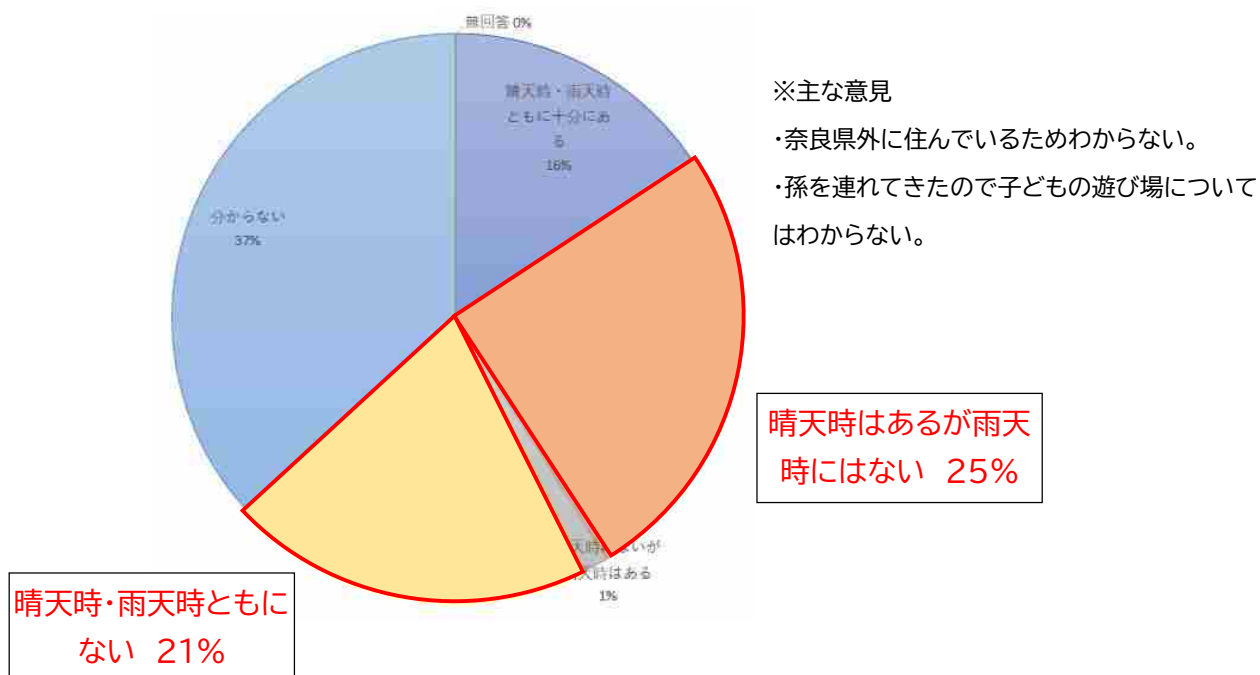
令和5年8月3日～6日(平日、土日それぞれ2日間)にまほろば健康パークファミリープール利用者を対象にアンケート調査を実施した。(回答数555人)

◆年齢層は30代と40代が約8割であり、お住まいは「奈良県内」が約7割となった。



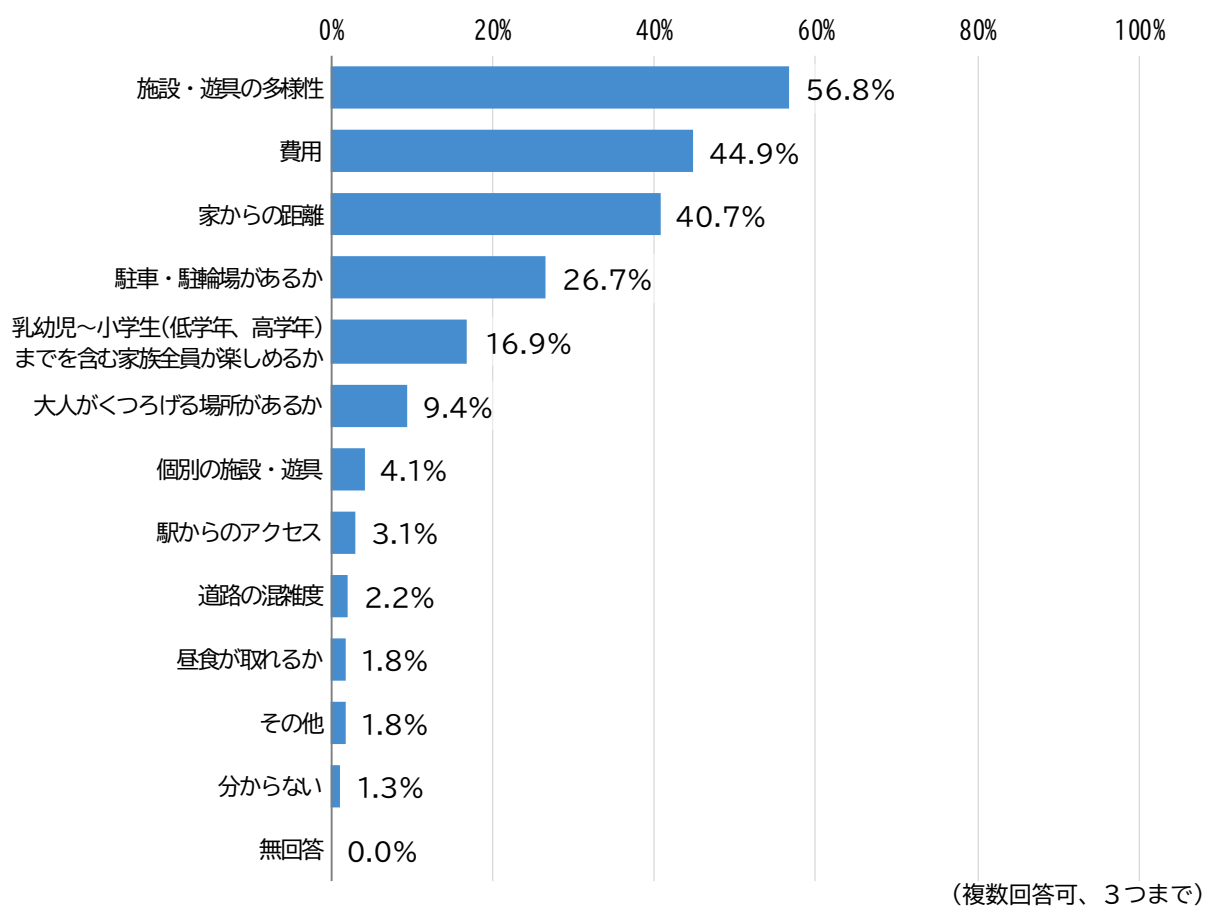
◆県内の子どもを遊ばせる場所が「晴天時はあるが雨天時はない」と「晴天時・雨天時ともない」を合わせて約5割であり、雨天時に遊べる施設に対するニーズが高い。

【子どもを遊ばせる場所】



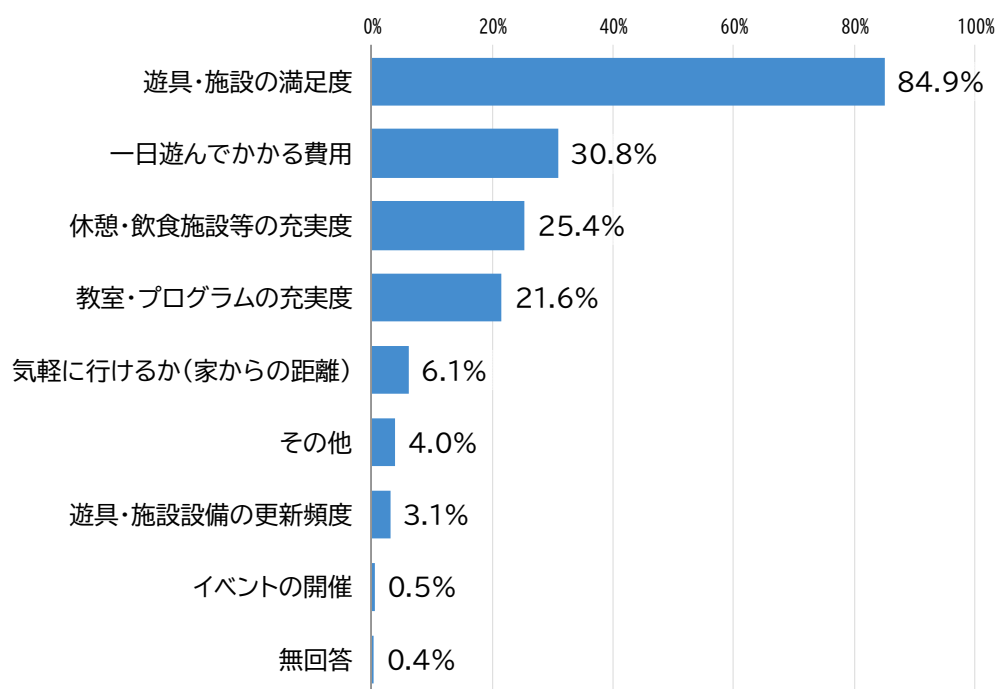
- ◆施設・遊具の整備に関しては、「個別の施設・遊具」ではなく、「施設・遊具の多様性」を重視している。
- ◆「費用」と「家からの距離」や「駐車・駐輪場があるか」といったアクセスの良さを次に重視している。
- ◆「乳幼児～小学生(低学年、高学年)」、「大人がくつろげる場所があるか」といった大人も含めた家族全員が楽しめるかといった点も重視している。

### 【こどもと公園等に出かける際に重視している点】



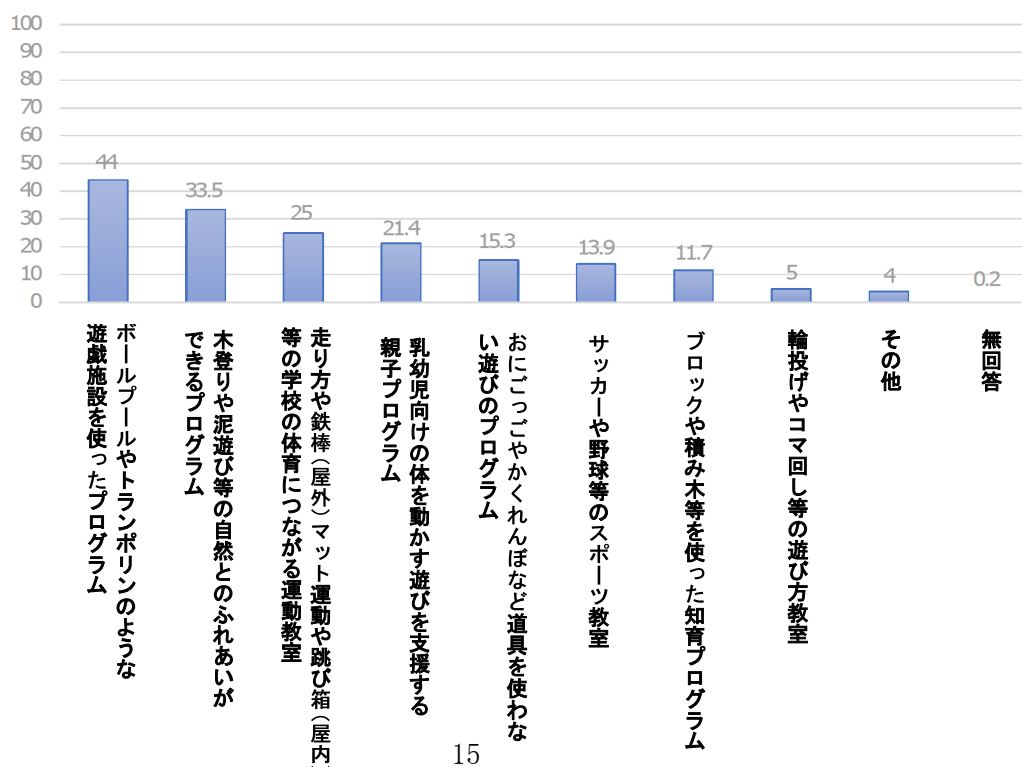
- ◆「一日遊んでかかる費用」より、「遊具・施設の満足度」を重視している。
- ◆「休憩・飲食施設等の充実度」も重視している。
- ◆「教室・プログラムの充実度」も重視している。

## 【公園等に再び訪れる際に重視する点】



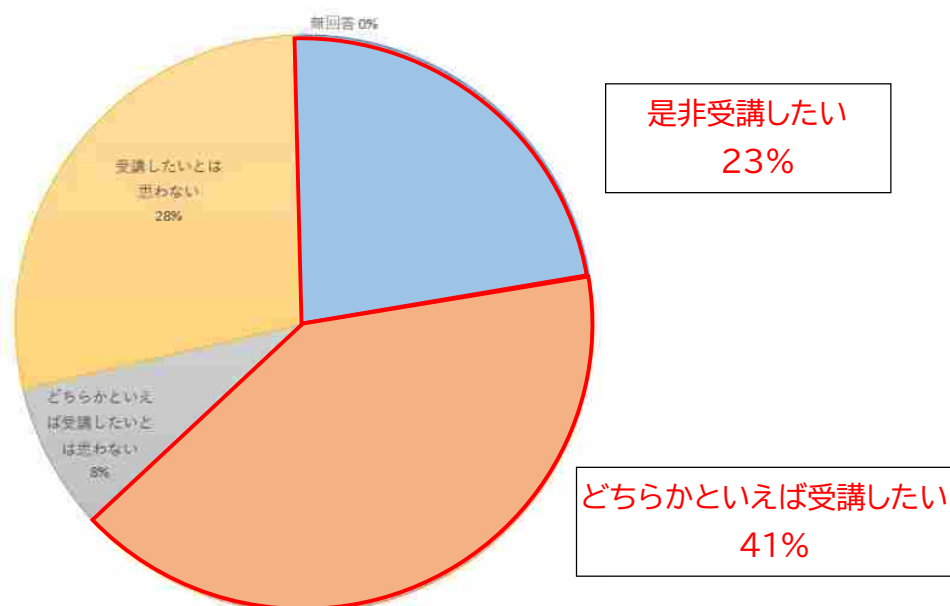
- ◆施設や道具を使った、幅広い内容の遊びや運動に関する教室・プログラムに対してニーズがある。
- ◆木登りや泥遊び等、自然とふれあえるプログラムに対しても、高いニーズがある。

## 【教室・プログラムに対するニーズ】



◆子どもを遊ばせている間に大人も体を動かすことができるプログラムへの受講意向が高い。

【子どもを遊ばせている間に大人も体を動かすことができるプログラムへの受講意向】





## (4) 県内福祉団体等からのヒアリング結果(12団体約30人に対してヒアリング)

## 1) 施設・遊具の整備

- ・ 大型ベッドのあるトイレ、介助者と一緒に入ることの出来るトイレは必要。
- ・ 音で遊ぶ遊具には、併せて光で遊ぶ機能もつけてほしい。
- ・ 突然、走り出したりして、遊具等にぶつかったり、転んだりする。そういった際に、怪我をしないように、素材等は柔らかいものを使ってほしい。
- ・ リハビリテーションセンターにある、障害の程度に応じて遊具等を組み替えて作る、スタートとゴールのあるサーキット活動(山あり、谷あり、平行棒等)のできる場所を設けてほしい。
- ・ 充電が必要な医療機器も多数あるので、電気の取れる場所もあるとありがたい。
- ・ 子どもが遊んでいる間、親もくつろげる場所をつくってほしい。
- ・ 電光掲示板やフラッシュライト等で聴覚障害者にも情報が伝わるようにしてほしい。
- ・ ピクトグラム等を使用するなどわかりやすい案内が必要。
- ・ 車で行くことが基本となるので、障害のある子どもの遊ぶエリアは駐車場を近くに設けてほしい。

## 2) 雨天時等でも遊べる場所

- ・ 温度調節が難しい子もいるので、屋内で遊ぶことのできる施設があるとありがたい。
- ・ 自由に動き回る(走り回る)ことのできる広い屋内施設がほしい。

## 3) 交流する仕組み

- ・ 障害のある人とない人がともに交流が出来るような工夫をしてほしい。
- ・ 公園利用者同士が自然と声をかけあったり、一緒に遊んだりする環境づくりをするために、コーディネーターやプレーリーダーなどを配置してコミュニケーションを促す土壌づくりをしてほしい。
- ・ 公園の中で、ある程度のゾーン分けは必要と思うが、年齢や障害の有無等ではっきりとわけないでほしい。

## 4) 自然の活用

- ・ 拡張予定区域にある既存の自由広場は残してもらいたい。
- ・ 土や自然に触れる場所が身近になく、木登りなんかも出来る場所があると良い。
- ・ 花を楽しむことのできる空間があると良い。

## (5) ワークショップの実施結果

### 1) 開催日・出席者

令和6年11月2日(土)にまほろば健康パークにおいて、小学校1年生～20歳の方8名(保護所除く)に集まっていただき、ワークショップを開催した。

### 2) 実施内容

まず、公園内を歩いて回り、現在の公園区域及び拡張区域の現状を説明した。

その後、室内で公園に「あったらいいもの、作ってほしいもの」について、自由に意見を出してもらい、地図上に貼り付けた。

主な意見としては、他の公園にある遊具などの施設だけでなく、ピクニックができてのんびり過ごすことができる場所や、動物と触れ合える場所、ご飯を食べることができる場所、清潔なトイレ等の意見があった。



ワークショップの様子



主な意見

### 3) 実施結果

参加者には事前に公園に作ってほしいものを考えてきてもらったが、みんなの意見に刺激されて多くのアイデアが出された。

また、保護者の観点からも意見をいただき、こどもが大きくなっても遊べる施設や雨天時でも遊べる施設を求める意見があった。

今後は、障害のある方や、その支援等、広く参加していただき、意見を聞いていく予定。

## 2.2 インクルーシブ公園整備に向けた課題

### 1) インクルーシブ公園整備に向けた課題

県内福祉事業者等へのヒアリングや周辺地域の意見や本検討委員会での議論の結果、下記の5点について課題が抽出された。

1. 障害の有無にかかわらず楽しく安全に遊べる場所(公園)が少ない
2. ハード整備によって、場を作るだけでは、障害者と健常者の交流は進まない
3. 地域のニーズ(アウトドア施設の整備)への対応
4. 現在の公園区域と拡張検討区域との分断がないような整備が必要
5. この場所が持つ潜在的な価値や魅力を活かした遊びが必要

### 2) まほろば健康パークで確保すべき機能について

アンケート調査結果と県内福祉団体等からのヒアリング結果によると、整備面だけでなく運営面でのニーズがあり、①インクルーシブな施設・遊具等、②雨天時等でも遊べる場所、③交流を促す仕組み、④幅広い内容の教室・プログラム、⑤自然の活用の5項目についてのニーズが確認された。

	項目	内容
整備	①インクルーシブな施設・遊具等	施設・遊具の多様性が求められており、バリアフリーの基準を満たすだけでなく、アクセスも含めて、様々な人に配慮したインクルーシブな施設整備が求められている。また、大人もくつろいだり楽しめる場所が求められている。
	②雨天時等でも遊べる場所	屋内遊戯場や体育館といった雨天時等に遊べる場所は一定数あることから、そういった施設とは異なる雨天時等に遊べる場所が求められている。
運営	③交流を促す仕組み	プレーリーダーの配置やゾーニングの工夫等によって、健常者と障害者や障害者同士の交流が深まる仕組みが求められている。
	④幅広い内容の教室・プログラム	施設や遊具を使った、幅広い内容の遊びや運動に関するプログラム等が求められている。
その他	⑤自然の活用	木登りや泥遊び等、自然と触れあえることのできる場所やサービスに対してニーズがある。

まほろば健康パークの利用圏域内での、これらの機能を有する施設の有無を民間も含めて調べると不足していることから、まほろば健康パークでは、これらの5項目を確保すべき機能とした。

公園管理者名	ニーズ調査等から求められる機能				
	①インクルーシブ機能	②雨天時等でも遊べる場所 (屋内遊技場、屋内運動施設以外)	③交流を促す仕組み	④幅広い内容の教室・プログラム	⑤自然の活用
県管理の公園	×	△ 1箇所 (馬見丘陵公園)	×	×	×
市・町管理の公園 (街区公園を除く)	△ 1箇所 (柏木公園)	△ 1箇所 (橿原運動公園)	△ 1箇所 (奈良市子どもセンター)	△ 1箇所 (奈良市子どもセンター)	△ 2箇所 (生駒山麓公園) (信貴山のどか村)
参考 (民間)	×	×	×	×	×

※本調査は、まほろば健康パーク15km圏域からの施設を抽出。

※本調査は、奈良県公園企画課調べ。

[凡例]

○:3件以上

△:3件未満

## 3 基本方針

### 3.1 基本コンセプト

前章までに整理した内容に基づき、本公園の基本コンセプト及び基本方針を以下のとおり設定する。

#### 【基本コンセプト】

- すべての人が楽しく利用できる公園  
幅広い世代のこども、保護者の交流を促す公園
- こどもの主体的な遊びを通して子育て・子育て支援に資する公園  
多様なニーズに対応できるように、プレーリーダーを配置する等、運営を充実させるとともに、民間のノウハウを積極的に導入して魅力的なサービスを提供

#### 【基本方針】

既存公園エリアを含めた公園全体でインクルーシブ機能の確保

### 3.2 ゾーン配置等の考え方

多様な子どもが、自分らしく様々な遊びを共に楽しめる場の確保を目指す。また多世代の人々が憩い、交流しやすい施設や環境を整える。

#### (1) 交流エリア

まほろば健康パーク来園者の交流拠点として、各施設利用者がアクセスしやすい、まほろば健康パークの中心地に交流エリアを設ける。

また、同エリアにある既存の貯留機能の強化を図る。

#### (2) 大屋根広場エリア

まほろば健康パーク南側の玄関口に、ニーズ調査等でニーズの高い、雨天時等に遊ぶことのできる大屋根のある広場を設けて、運動プログラムやバスケット等様々な活動が行えるようにする。

また玄関口として公園の顔となる噴水等の施設を設ける。同エリアは、大屋根の集客力を生かして、公園のコンセプトを踏まえて民間活用施設の導入を進める。

#### (3) プレイパークエリア

大屋根広場に隣接する西側の拡張エリアに、起伏があって、水遊び、泥遊び等のできる、プレイパークエリアを設けて、子どもたち等といっしょに遊び場づくりを進める。

#### (4) アウトドア・樹林エリア

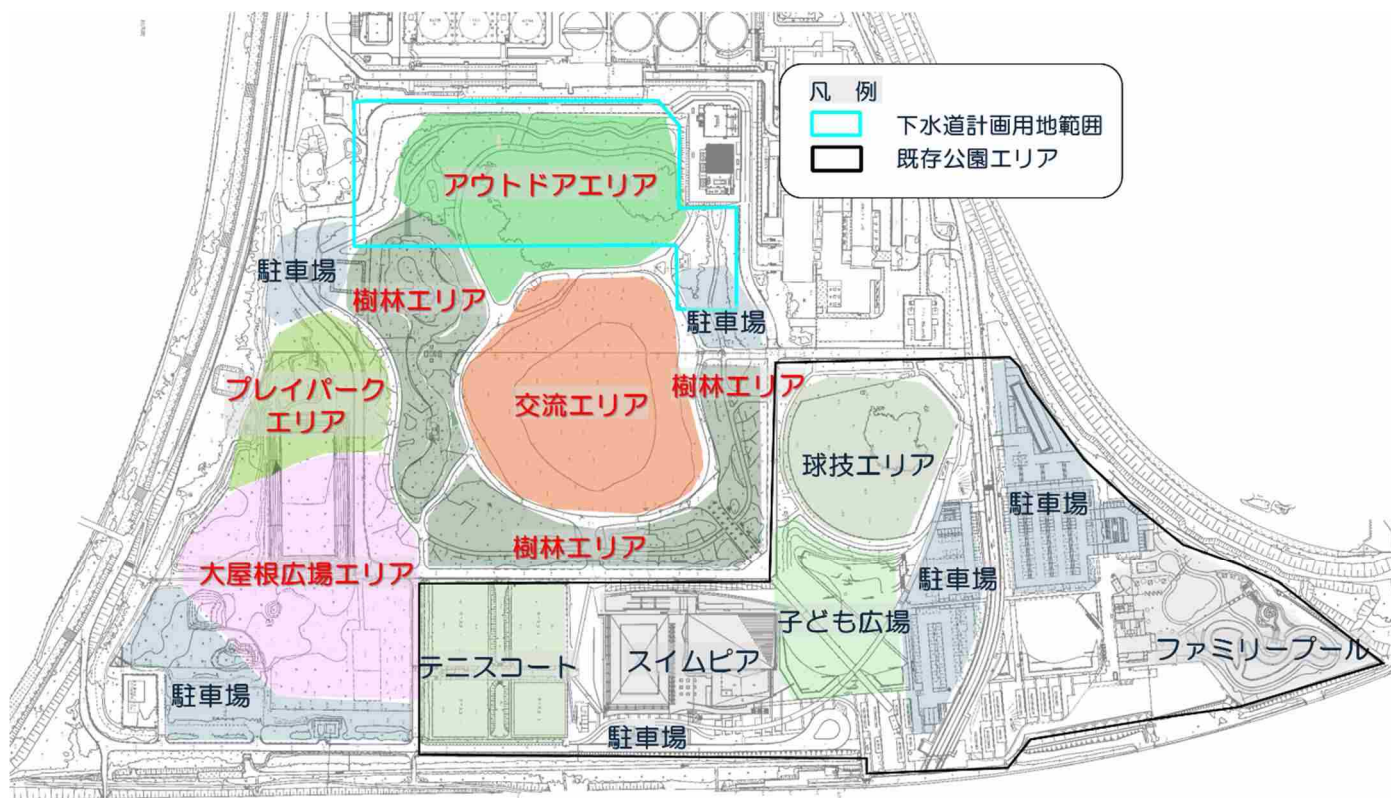
地元自治体からニーズのある、キャンプ等の出来るアウトドアエリアは、プレイパークエリアと親和性があることから、その北側に隣接させる。また、交流エリアの周囲にある既存の樹林等を一部間伐して活用する。

なお、同エリアは、下水道の計画用地となっており、土地利用等に制約があることに留意する必要がある。

#### (5) 既存公園エリア

既存公園エリア内の施設についても、インクルーシブ機能の確保に向けて、必要な改修や運用の変更を行う。

※民間活用施設の導入について、事業者ニーズも考慮して、大屋根広場エリアとは別に、基本コンプト等を踏まえた施設の導入が可能か検討する。



※下水道計画範囲にある各エリアの施設配置等の詳細は、下水道管理者と協議のうえ、決定するものとする。

今後の基本設計により、修正される場合があります。

図3.1 ゾーン配置計画図

### 3.3 動線計画

動線は、歩行者動線と車両動線の交わる箇所が最小限となるように留意する。交わる箇所については、歩行者の安全性を十分確保できるよう構造を検討する。

車いす利用者を含む多様な子どもも含めて誰もがすべてのエリアを利用できるアクセシビリティを確保する。

#### (1) 車両動線

北方向、南方向、それぞれの方向から、まほろば健康パークにアクセスした車両が、全てのエリアへとアクセスできるように、車両動線を配置する。但し、公園を利用しない通過車両が生じないように工夫する。

#### (2) 自転車動線

広い公園敷地を快適に移動できるように、自転車動線を整備する。自転車動線は、スイムピアにあるサイクルステーションを起点に、公園内を周遊できるようにして、新たに整備する車両動線と並行して配置する。また、交流エリアの周囲に、自転車等を自由に乗り回せるスペースを歩

行者の安全を確保した上で設けて、外側の自転車動線と接続する。

### (3) 歩行者動線

エントランス広場と大屋根広場エリアを結ぶ歩行者動線を、まほろば健康パークの南と北をつなぐ主要な散策路とする。

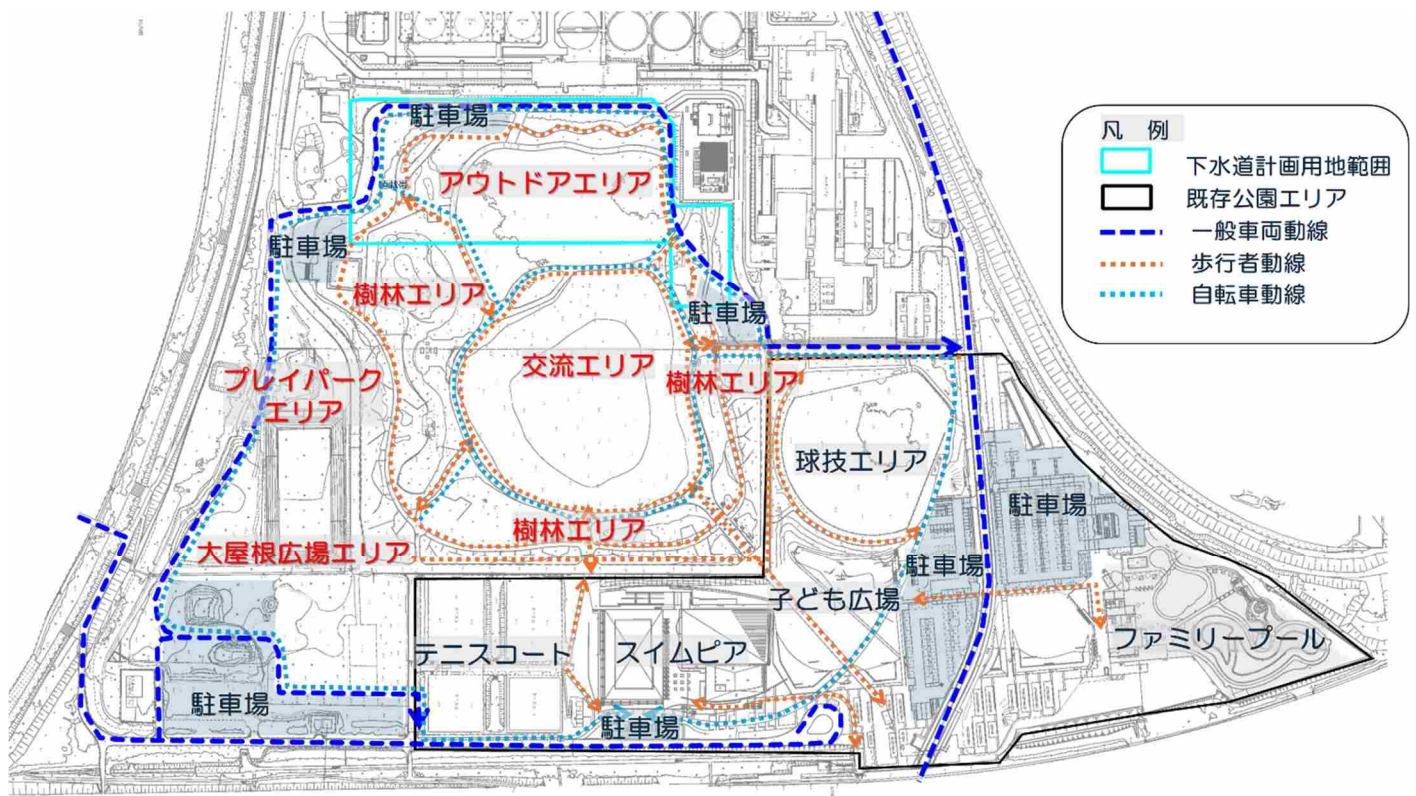
また、交流エリアを中心に、各エリアを散策できるように、歩行者動線を配置するとともに、周囲のエリアから交流エリアに最短でアクセスできるように歩行者動線を配置する。

散策自体を楽しむことができるように、場所に応じて、足の裏で感じるることができる砂利の道や、季節毎の自然を感じる花壇の配置等を行う。

なお、砂の道の園路整備する場合には、車いす利用者も楽しめるように、舗装された園路を併走するように整備する。

### (4) 駐車場

公園内の施設に、全ての利用者がアクセスできるように、各エリアに隣接した場所に駐車場を配置する。



※下水道計画範囲にある各エリアの施設配置等の詳細は、下水道管理者と協議のうえ、決定するものとする。

今後の基本設計等により、修正される場合があります。

図3.2 動線計画図

## 4 公園整備方針

### 4.1 施設整備の考え方

駐車場について、障害者の方の需要を考慮し、車椅子対応駐車場や思いやり駐車場は十分な台数を確保する。雨天時の利用等に配慮して車の乗降スペースから屋内施設までの屋根付きの歩行者動線を確保する。

近年の温暖化に対応出来るように、各エリアに日除けのできる休憩場所を配置する。

各エリアに男女別のトイレの他に、大人用の大型ベッド、介助スペースを確保され、異性介助者が周囲の視線を気にすることなく入ることができるバリアフリートイレを設置する。

整備する施設はバリアフリー対応にすることはもちろんのこと、医療機器利用者等が必要とする電気を取れる場所等、障害のある人が必要とする設備を整備する。また、洪水等の緊急時に、すべての人が安全に行動できるように、色彩計画にも配慮したわかりやすい案内表示の整備や情報システムを整備する。

整備、運営、維持管理、それぞれにおいて、費用対効果を高める計画とする。

上記およびゾーニング、動線と施設整備の考え方を踏まえた想定する施設配置イメージは以下のとおりとする。

### 4.2 施設配置イメージ



※下水道計画範囲にある各エリアの施設配置等の詳細は、下水道管理者と協議のうえ、決定するものとする。

今後の基本設計等により、修正される場合があります。

図 4.1 施設配置計画図



### 4.3 各エリアの施設整備等の詳細

インクルーシブ公園整備の計画対象範囲は、拡張予定区域だけでなく、下水道計画用地を含めた公園全体を対象として検討を進めていくものとし、基本コンセプト及び整備方針に定めたゾーンに応じた施設を導入する。

既存公園の取扱いと、インクルーシブ公園整備後の各ゾーンへの新たな導入施設は、現時点で以下の内容の施設設置を計画している。

#### (1) 交流エリア

- 交流エリアの周囲にベンチ等を配置して、シェードや樹林の木陰を利用して、くつろげる場所を設ける。
- 交流エリアや周囲の樹林エリアを楽しめるように、バドミントンなど公園あそびグッズや日除けとなる道具、テーブル、椅子等の貸し出しを行い、1日のんびりと過ごすことができるようにする。
- 交流エリアの丘陵を平坦にし遊びやすくするとともに、出水時における貯留機能の強化を行う。

#### (2) 大屋根広場エリア

- 雨天時等にも遊ぶことの出来る大屋根を設置する。
- 屋根の下で、大人はくつろぎながら、子どもの遊ぶ様子を見守ることができるように、ベンチ等を設ける。
- 広場の中心にエントランス広場からプロムナードの先の目印となる噴水等を設置して、みんなが水に親しむことのできる場所とする。
- 大屋根広場の周囲には、インクルーシブ遊具やモバイル遊具を設置して、子どもが遊べるようにする。
- 大屋根の下で、多様な運動プログラムやイベントを開催する。

#### [民間活用施設]

- 民間の発想を活かして、屋内遊戯場や飲食施設等の入る便益施設を設置する。

#### (3) プレイパークエリア

- 子どもとのワークショップを通じて遊び場の設計を進める。
- 車椅子利用者を含む多様な子どもが遊びに参加しやすい環境を目指す。
- 運営開始後は、プレーリーダーを配置して、子どもが自由に遊べる環境をつくり、子どもの遊びを活性化させる。また、プレーリーダーの支援のもと、子どもたちが主体的に遊具の製作更新に携わる。
- プレイパークエリアでは、水や火を使った遊びも可能とする。
- プレイパークエリアとアウトドアエリアの利用者が利用できるシャワー施設を整備する。

#### (4) アウトドア・樹林エリア

- トレーラーハウスやコンテナ型トイレを配置して、災害時等に活用できる施設を準備して、平常

時には宿泊施設等として活用する。

- テント等で宿泊することができるようにするとともに、アウトドアに必要な炊事場を整備する。
- バーベキューを楽しむことの出来るスペースを設けるとともに、必要な材料や食材の提供を行う。
- 樹林を活かして、アスレチックや木登り等の体験ができる施設を設ける。また、多様な子どもが自分に合った遊び方や挑戦を選べるよう留意する。

#### (5) 既存エリアにおけるインクルーシブ化

- (テニスコート)テニスコートをハードコートにして、車椅子利用者も一緒にテニスを楽しむことができるようにする。
- (スイムピア)障害のある方も一緒に楽しむことのできる大型SUP等の教室を開催する。
- (子ども広場)遊び方が単一になっている遊具について、子どもとのワークショップを通じて、多様化を行う。
- (野球場)サッカーや野球等、ボール遊びができるように、球技エリアとして一般開放を行い、ボールを使った多様な教室やイベントを開催する。

## 5 管理運営方針

まほろば健康パークの管理運営方針として、インクルーシブ公園としての機能を拡充するにあたり、多様なニーズに対応できるように運営を充実させる。

既存公園と新たに整備する区域を一体的に管理運営して、効率化を図るとともに、設計段階だけでなく、完成後も継続的に若者や子ども等の意見を聞きながら施設を改善していく。

民間の知見を最大限活かして、管理運営の最適化を図る。

### 5.1 維持管理の考え方

利用者が安心・安全に利用できるよう、適切に維持管理を行う。

既存公園は、整備から 10 年経過して、施設の老朽化が進行している箇所もあるため、長寿命化計画を作成して、計画的に施設の更新等とともに、必要なバリアフリー対策を行う。

### 5.2 運営の考え方

時代の変化や幅広いニーズに対応し、交流を促すため、発達段階に応じた遊具や運動器具を組み替えて、様々な遊び場を提供する。

遊びが豊かになるように、プレーリーダーを配置する等、公園で提供するサービスを充実させる。

## 6 事業推進の考え方

### 6.1 費用負担の考え方

民間活用施設等の収益の見込める施設は、民間による費用負担による整備、管理・運営を想定し、設置許可、Park-PFI等の事業形態については、事業者とのサウンディングにより検討する。

駐車場、広場、大屋根等の収益性の低い施設は、公共による費用負担による整備を想定して、その中の一部は、民間活用施設等の収益により整備する Park-PFI の可能性を検討する。これらの施設の管理・運営費用の負担は、公共と民間による混合型を想定して、トライアルサウンディングにより民間事業者による運動プログラム等の運営事業に関する収益性を確認して、公共の負担額を検討する。

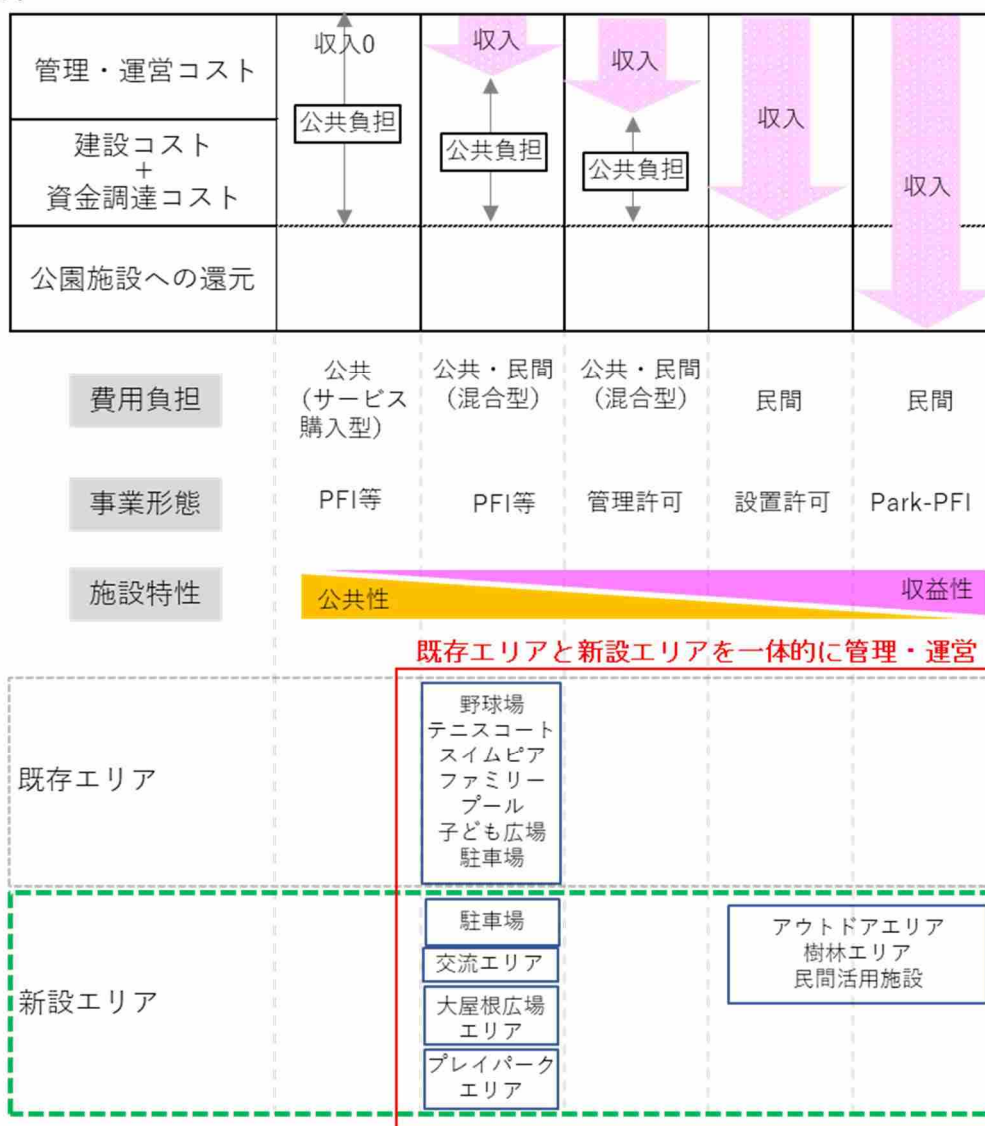


図 6.1 まほろば健康パークにおけるエリア毎の収支による官民費用負担と事業形態のイメージ

## 6.2 想定される事業手法(案)

効率的・効果的そして魅力的な管理運営が出来るように、設計段階で管理運営事業者の提案やノウハウが設計に反映されるような事業手法とする。

具体的に、費用負担の考え方を踏まえて、施設整備、管理運営事業者の選定を次のとおり進めることとする。

### (1) 施設整備

公共で負担して整備する施設は、整備内容や整備費用等について基本設計により県としての考え方を整理して、要求水準書を作成する。管理・運営事業者を選定した後に、同事業者の意向を基本設計に反映させて、整備内容を決定する。

民間で負担して整備する施設は、民間の提案する自由度の確保に配慮しつつ、要求水準書を作成して、民間の提案により整備内容を決定する。

基本設計や要求水準書の作成においては、有識者、子ども、障害者団体等、様々な人の意見を聞いて、反映させる。

### (2) 管理運営

公園の管理・運営は、民間のノウハウをいかして魅力的なものとなるように、指定管理によるものとする。また、既存公園区域と新たに整備する区域を一体的に管理・運営させて、効率的・効果的になるようにする。

管理・運営内容は、民間の提案する自由度の確保に配慮しつつ、要求水準書を作成して、民間の提案により管理・運営内容を決定する。

要求水準書の作成においては、有識者、子ども、障害者団体等、様々な人の意見を聞いて、反映させる。

上記の事業者選定方法を満たす、事業手法を比較検討して、最適と考えられる方法を選定する。

## 【選択肢1】 PFI方式+Park-PFI(or 設置許可)

公共施設等の建設、維持管理、運営等を一括で民間事業者に公募・選定する。民間事業者の資金、経営能力及び技術的能力を活用し、民間主導で効率的・効果的な整備・運営を行う。

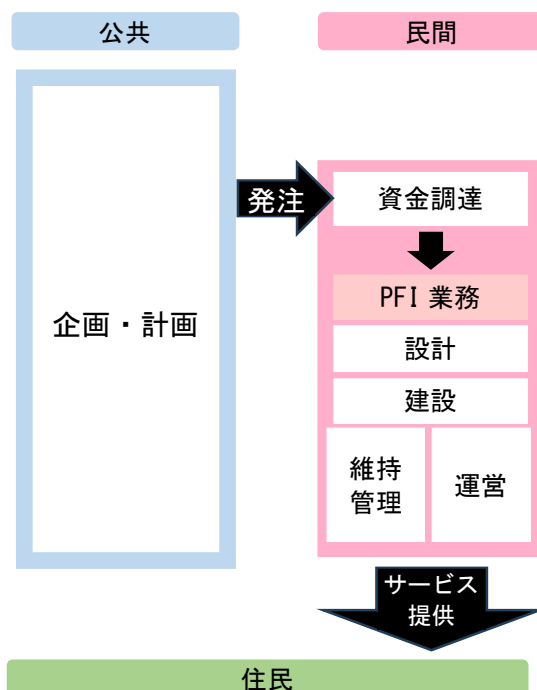


図 6.2 PFI方式の場合の事業スキーム(案)

## 【選択肢 2】 運営先行PFI方式(サービスプロバイダ方式)+Park-PFI(or 設置許可)

運営管理事業者を先に公募・選定し、維持管理・運営コストを先に決定させる。その後、運営管理事業者が一体のSPC(特別目的会社)に参加することを条件に設計・工事事業者を公募・選定する。

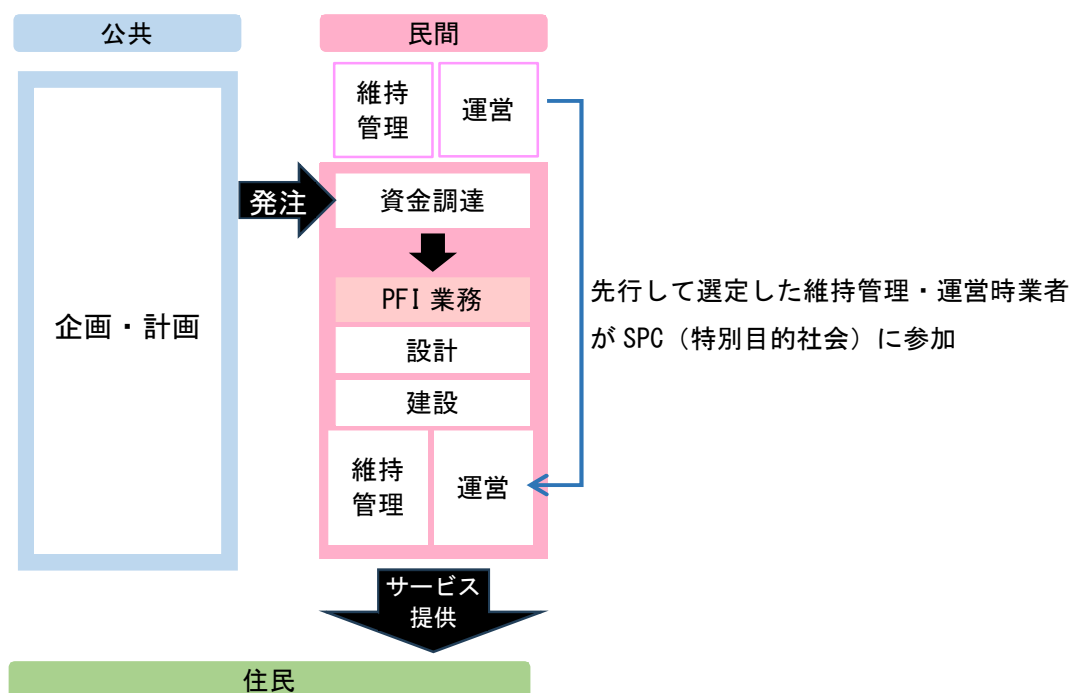


図 6.3 運営先行PFI方式(サービスプロバイダ方式)の場合の事業スキーム(案)

## 【選択肢3】 DO方式

設計事業者と運営事業者を同時に公募・選定し、設計業務完了後、公共による費用負担整備部分を県発注により建設工事を行う。

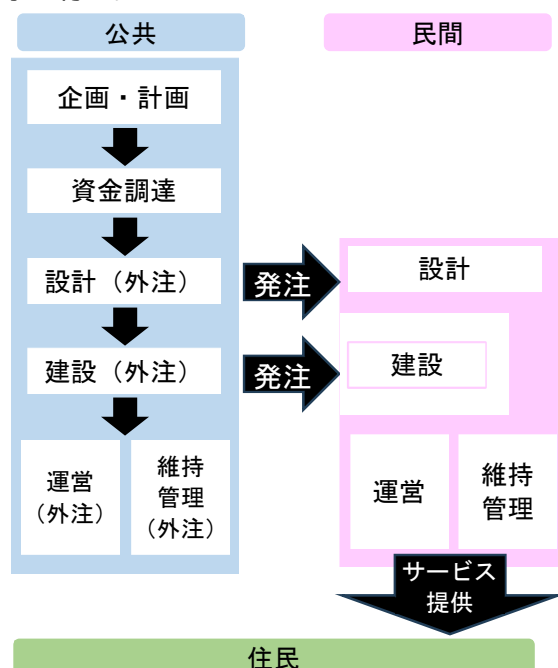


図 6.4 DO方式の場合の事業スキーム(案)

本公園の基本コンセプト及び基本方針を十分に踏まえた上で、上記3案について、「様々な人の意見を反映させることができる等の柔軟性」、「管理・運営、建設に関する民間ノウハウの活用度」、「管理・運営、建設に関する価格競争性」の指標で比較検討した結果比較検討の結果、総合的に優れていると考えられる「運営先行PFI方式(サービスプロバイダ方式)+Park-PFI(or 設置許可)」の手法の導入を検討する。

表 6.1 3事業手法の比較検討

事業手法	評価の視点		
	様々な人の意見を反映させることができる等の柔軟性	管理・運営、建設に関する民間ノウハウの活用度	管理・運営、建設に関する価格競争性
PFI方式+ Park-PFI(or設置許可)	△ ・事業者と契約後、意見を反映させる場合には、事業者との協議が必要となり、柔軟性が低い。	○ ・管理・運営と建設、両方が優れた提案となっていない事業者と契約する場合があります、その場合は民間ノウハウの活用度は下がる。 但し、設計段階で、管理・運営、建設事業者のノウハウを反映することが可能。	○ ・管理・運営費と建設費の配分が事業者に委ねられるため、必要な建設費用を全体事業費から確保することが出来るため、価格競争がはたらかない場合がある。 但し、設計段階で、管理・運営、建設事業者のコスト縮減に関する提案を反映させることが可能。
運営先行+ PFI方式+ Park-PFI(or設置許可)	○ ・運営事業者を選定時とPFI事業者選定時それぞれで意見を反映させる機会があるため、柔軟性がある。	◎ ・管理・運営と建設、それぞれの事業者を直接選定するため、両方で優れた提案の事業者と契約することが可能。 また、設計段階で、管理・運営、建設事業者のノウハウを反映することができるため、民間ノウハウの活用度は高くなる。	◎ ・管理・運営と建設、それぞれの事業者を直接選定するため、価格競争性を高めることが可能。 また、設計段階で、管理・運営、建設事業者のコスト縮減に関する提案を反映させることができるため、価格競争性は高くなる。
DO方式+ Park-PFI(or設置許可)	◎ ・建設工事の発注ロットによっては、意見を反映させる機会が複数回あるため、柔軟性が高い。	○ ・管理・運営と建設、それぞれの事業者を直接選定するため、両方で優れた提案の事業者と契約することが可能。 但し、設計段階で建設事業者のノウハウを反映させることができない。	○ ・管理・運営と建設、それぞれの事業者を直接選定するため、価格競争性を高めることが可能。 但し、設計段階で、建設事業者のコスト縮減に関する提案を反映させることができない。

## 7まとめ

## 7.1 基本計画図

これまでの検討を踏まえ、本公園の基本計画図を以下に示す。



※下水道計画範囲にある各エリアの施設配置等の詳細は、下水道管理者と協議のうえ、決定するものとする。

今後の基本設計等により、修正される場合があります。



## 7.2 イメージパース

基本計画図に基づく鳥瞰図及び各施設イメージパースを以下に示す。



### 7.3 事業スケジュール(想定)

既存公園区域の管理運営期間が令和10年度までとなっていることから、それまでに管理運営事業者を決める必要がある。

設計内容や工事可能時期等について、関係機関や地元と調整して決定する必要があり、協議によって事業スケジュールが、見直される可能性がある。

事業推進の考え方を踏まえて、現時点で想定する事業スケジュールは以下の通りとなる。

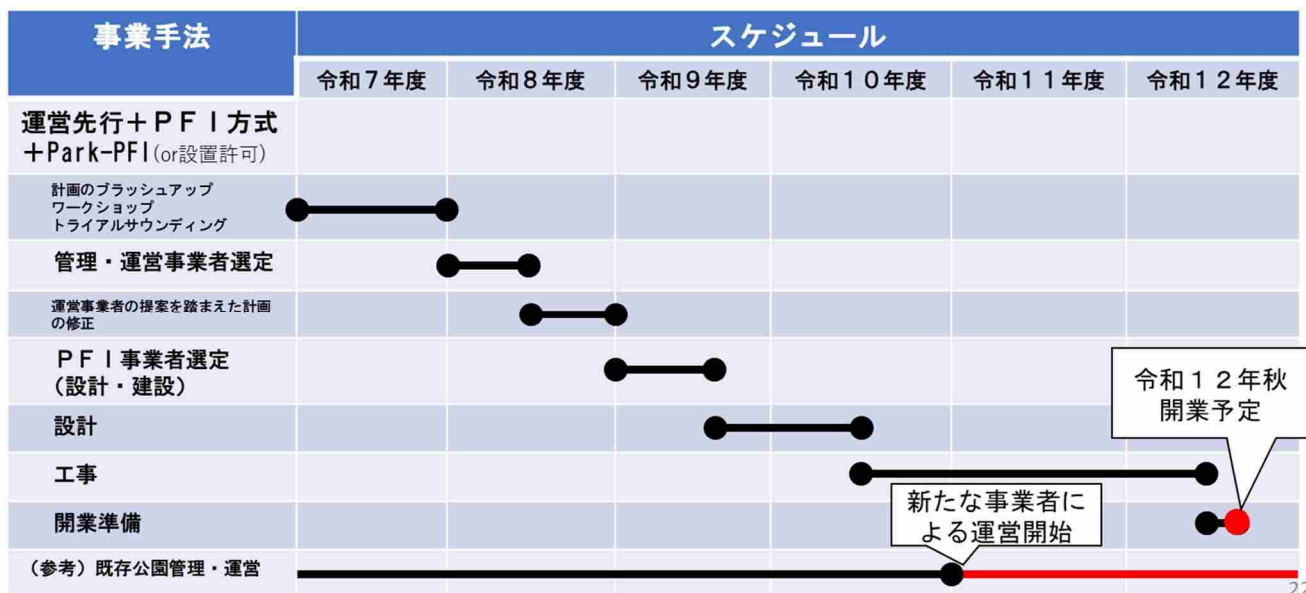


表 7.1 事業スケジュール(想定)

管理・運営事業者選定以降に事業者に対して、開園に向けたイベント等を開催することにより、インクルーシブ公園整備の機運の醸成を図る。